

# 心温まる、記憶に残る一日に

## 令和6年度「小さな親切」運動全国表彰式

〈後援〉内閣府・文部科学省・NHK  
〈と き〉2024年11月29日(金)  
〈と ころ〉東京・ホテルグランドアーク半蔵門  
〈司 会〉石井麻由子  
(NHK財団・ことばコミュニケーションセンター専門委員)  
※各賞の受賞者、コンクール入賞・入選者氏名は運動本部WEBサイトにてご紹介しています。

内閣府大臣官房総務課・吉田理子制度室長より来賓あいさつ



去る11月29日(金)、遅い紅葉が色づき始めた都内で令和6年度全国表彰式を開催し、内閣官房長官賞、「小さな親切」運動大賞、運動賞、作文コンクール、はがきキャンペーン(エッセイコンテスト)の表彰を行いました。

運動本部では、式典に参加した方々に少しでも「小さな親切」の精神にふれ、温かな気持ちになってもらいたいと、コンクール入賞作品の朗読に加えて、受賞者やご家族へのインタビューを企画。生の声を届けることで、人と人とのつながり、思いやりの大切さを改めて感じてもらいました。  
平日開催ではありませんでしたが、全国から200名を超える方々にご出席いただき、「遠いので迷ったが、来てよかった」と、わざわざスタッフに伝えに来てくださった



鈴木恒夫代表より主催者あいさつ

方も。皆様の記憶に残る一日になつていましたら、幸いです。  
ご参加された皆様、ありがとうございます。そして今回表彰を受けた皆様、改めておめでとうございます。

### 気づくことが「小さな親切」の第一歩

専務理事 山橋由貴子

毎年、全国表彰式で皆様にお会いするのを楽しみにしています。内閣官房長官賞や運動各賞を受賞された方々は、日頃から地域のためにと運動を推進してくださっています。「小さな親切」運動が、皆様の地道な活動に支えられていることに改めて感謝いたします。  
また、作文コンクールとはがきキャンペーンの表彰を行いました。100人いれば100通りの親切があるので、作品に優劣をつけるのは本当に難しいのですが、私たちは、文章のうまさだけでなく、筆者の心がどんな風に動いたのかを大切に審査しています。「小さな親切」は自分の中にある思いやりや優しさを「行動」で伝える、人と人をつなぐ大切なもの。皆様の作品には、その気持ちがたくさん詰まっていました。



山橋専務理事より閉会のことば

親切の第一歩は、気づくことです。例えば、公園にきれいな花が咲いているのに気づいたとき。「きれいだな、気持ちがいいな。誰か手入れをしているのだろうか」と、心が動きます。勉強も大切ですが、自分が体験したことで心は動き、自分自身で豊かな心を育むことができるのです。  
今日の表彰式によって「自分も親切をしよう」と思ったり、誰かに感謝の気持ちを伝えたりするきっかけになれば嬉しいです。  
(閉会のことばより)

## 第40回はがきキャンペーン 受賞者インタビュー

### 「はがき」主人との思い出のランチ

大賞を受賞したのは、ご病気で車いすを利用していただいたご主人と、ランチをするために入ったレストランで、お店の方々の温かな対応が心に沁み、思わず涙した体験を綴ってくださった**南平茜**さん。本誌秋号(No.536)で作品を紹介したところ、多くの方々より「感動した」との声が届きました。賞状の授与に続いて司会者が作品を朗読すると、再び涙が込み上げてしまった南平さん。実は、レストランを訪れた頃、先天性の心疾患のあったご主人はすでに余

命宣告を受けており、その日のランチは二人にとって最後の外出に。それから間もなく、ご主人は天国へ旅立たれました。  
南平さんは「今回の受賞は、二人の夫婦生活に花丸をもらえたようでとても嬉しいです」と、話してくださいました。  
レストランの方々もお二人のこととはよく覚えており、大賞受賞を伝えたと、とても喜んでくださったそうです。  
天国のご主人も、受賞を祝い拍手を送っていることでしょう。



インタビューでは笑顔も見せてくださいました

### 受賞の報告は最後の親孝行

今から61年前、自分が母のお腹の中にいるときのエピソードを寄せてくださったのは、入選の**木原茂**さん。予定日より早く産気づいた木原さんのお母様を、パトカーで産院まで送り届けてくれた警察官に、「私が今いるのは、あ那时的警察の皆さんのおかげ」と感謝を綴りました。  
パトカーを見るたびに「生まれる前からお世話になつているんだから、お巡りさんのお手を煩わせ

ることのないように」と言っていたお母様は、残念ながら表彰式を控えた11月初旬に帰らぬ人となりましたが、受賞の報告は生前にすることができたそうです。  
「最後に親孝行ができました」と語る木原さんは、自らも警察官の道を選び、37年にわたって安心・安全の社会づくりに貢献。母の言葉を守り、社会に尽くした実直な人柄が感じられました。



第49回作文コンクール  
大臣賞受賞者&ご家族インタビュー



大臣賞を受けて 将来の夢語る

今年度の内閣総理大臣賞に輝いたのは、熊本大学教育学部附属中1年・甲斐宗汰郎さん。夏休みに祖父の家を訪れ、高齢の地域住民が安全にお墓参りができるよう、墓地周辺や農道・町道の草刈りを行う「みちづくり」を手伝った経験から、地域の見えない親切や思いやり、助け合いの大切さを再認識したことを作文にしてくれました。

また、文部科学大臣賞を受賞した、福岡県 明治学園小5年・能美になさんは、土砂降りの中、車いすの男性とその妻に母親



内閣総理大臣賞・甲斐さんと司会の石井麻由子さん

が声をかけ、一緒に傘を差して横断歩道を渡ったできごとを振り返り、声をかけるといふ小さな勇気が人と人をつなぎ、「行動」を「親切」に変えた、と綴りました。

心温まる作品朗読に続いて、インタビューに答えてくれた二人に、司会者が将来の夢を聞くと、甲斐さんは「医者」、能美さんは「作家」と回答。場内から「ほう」と感心の声があがりました。

親切について深く考えることができる感受性豊かな二人はきっと、それぞれの夢に向かってはばたいてくれることでしょう。



夢は「作家」文科大臣賞受賞の能美さん

かっこいいお母さん



受賞者席の娘に向かって手を振る小松さん

いすに乗ったおじいさんとの介助をするおばあさん夫妻に声をかけ、一緒に盆踊りを楽しみながら二人を気遣う由紀さんの様子がユーモラスに描かれています。

由紀さんが、「おせっかいと親切は紙一重」と言いながらも、「結果は気にせず、親切にするべき」「自分がしてもらって嬉しいことを人にもする」との信念を語ると、娘の舞華さんは「お母さんはスーパーヒーロー」と話してくれました。

かっこいいお母さんの姿はきっと、子どもたちの行動の指針となるはず。親だけでなく、周りの大人も常に子どものお手本となるよう心掛けたいものです。

感動のエピソード満載  
入賞作品集

今年度の「はがきキャンペーン」作文コンクール入賞作品を収録した作品集『人が好きになるすてきな54話』を発行します。今年度も珠玉のエピソードが満載です。インタビューに答えてくださった皆様の作品も掲載されていますので、ぜひWEBサイトよりお申し込みください。

発行日：2025年2月17日

定価：600円(送料別途)

※はがきキャンペーン入賞・入選全作品。作文コンクール上位30作品を収録(入選者は学校名・氏名のみ掲載となります)。

